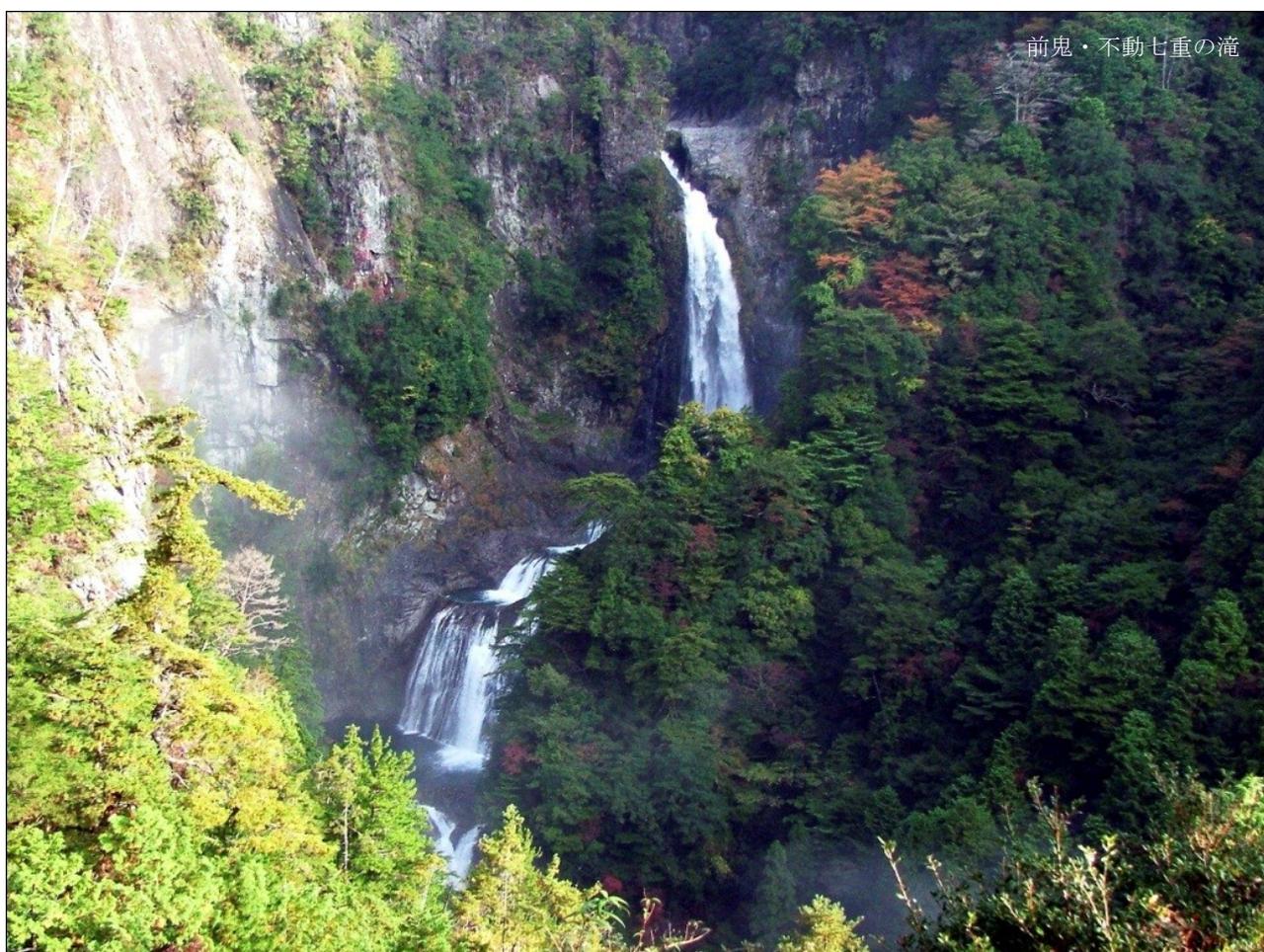


下北山村まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン及び総合戦略

概要版



平成 27 年 11 月

下北山村



I 下北山村人口ビジョンの位置づけと対象期間

下北山村では、地方創生・人口減少克服という構造的課題に取り組むため、45年後の2060年（平成72年）までを対象期間とする「下北山村人口ビジョン」を策定することとしました。

下北山村人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の趣旨を尊重し、本村における人口の現状分析を行い、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。あわせて策定する「下北山村地方創生総合戦略」において効果的な施策を立案する上で重要な基礎として位置づけています。

II 人口の将来展望

2010年時点（国勢調査）で1,039人となっている下北山村の人口は、現状のまま推移すると2040年には365人、2060年には133人まで減少するという推計がされています。

今後、交流人口の増加を定住につなげるための取り組みと、結婚・出産・子育てを支援する取り組みによって、生産年齢層の転出防止・転入促進を図るとともに、合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子どもの平均数）の上昇を図ることとし、将来展望人口は2040年で約470人、2060年で約310人と見込みます。

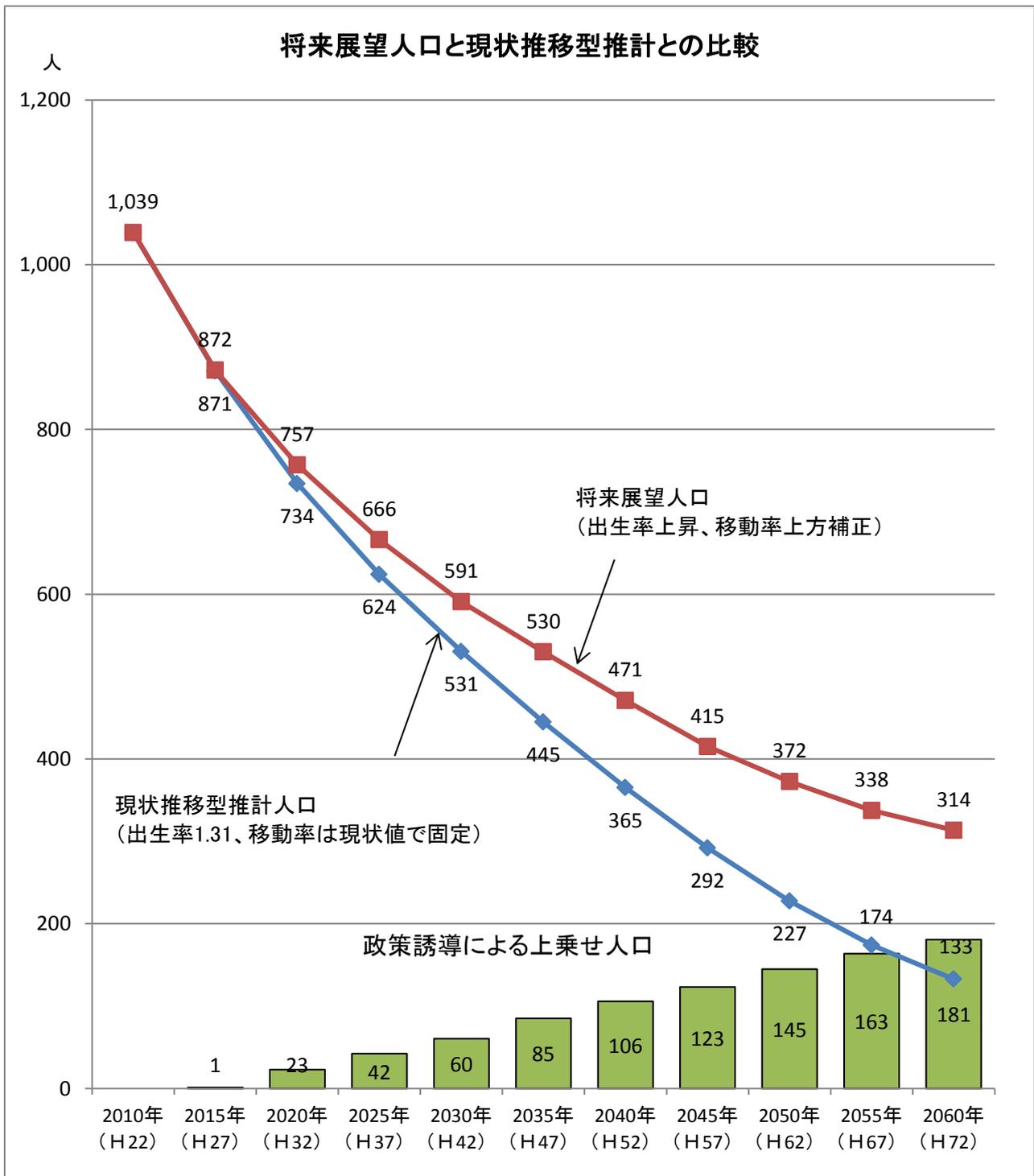
定住人口の見通し

2020年（平成32年）：約760人

2040年（平成52年）：約470人

2060年（平成72年）：約310人





将来展望人口の年齢別割合をみると、年少人口割合は2030年以降増加に転ずる一方、高齢化率は2035年に58.2%とピークを迎えその後下降していくと見込まれます。

	2010年 平成22年	2015年 平成27年	2020年 平成32年	2025年 平成37年	2030年 平成42年	2035年 平成47年	2040年 平成52年	2045年 平成57年	2050年 平成62年	2055年 平成67年	2060年 平成72年
年少人口割合	11.2%	8.6%	7.3%	7.1%	7.6%	9.0%	10.7%	12.1%	13.2%	13.3%	13.6%
生産年齢人口割合	44.8%	44.2%	43.7%	40.5%	37.4%	32.9%	31.9%	33.0%	37.2%	41.3%	43.8%
老年人口割合	44.1%	47.2%	49.0%	52.4%	55.0%	58.2%	57.4%	54.9%	49.6%	45.4%	42.6%

※端数処理しているため合計が一致しない場合があります。

I 下北山村地方創生戦略の基本的な考え方

1 国の創生総合戦略及び本村人口ビジョンとの関係

国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をもとに、本村における人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指し、人口の現状と将来の展望を提示する人口ビジョンを踏まえて、今後5カ年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたものです。

2 下北山村総合計画との整合

下北山村地方創生総合戦略は、「きなりの郷下北山村 元気 本気の人気村」を将来像とする協働のむらづくりの基本的指針である、下北山村総合計画及び国が示す地方創生戦略の政策分野と整合させつつ、特に若い人たちが夢と希望の持てる活力ある村づくりを推進し、「住みたい、住んで良かった」、「行きたい、行って良かった」と思えるような下北山村の実現を目指し、地方創生のための3つの基本目標を掲げます。

3 戦略の実施期間

戦略の実施期間は平成27年度から平成31年度までの5年間です。

4 計画のフォローアップ

各基本目標における数値目標、重要業績評価指標（KPI）に基づき、取り組みの効果を定期的に検証するとともに、社会経済情勢や村の内外の状況変化に対応して、適宜戦略の見直しを行い、効果的な施策の刷新に取り組みます。

II 下北山村地方創生戦略の体系

下北山村地方創生戦略の基本目標	施策の基本方向
基本目標 1 森と生きる 仕事づくり、ものづくり、ひとづくり	1 新たな林業経営の調査研究
	2 遊休農地の活用と就農者の創出
	3 きなりの郷ブランドの研究・開発
	4 起業・就業支援体制の充実
	5 地域内消費の喚起
基本目標 2 森に遊ぶ もてなし、ふれあい、感動づくり	1 交流人口の拡大
	2 きめ細やかなおもてなし体制
	3 新しい観光資源をつくる
基本目標 3 森で育む 子どもの笑顔と きなりライフ	1 定住・転入の促進
	2 結婚・出産・子育てへの切れ目ない支援
	3 暮らしやすい安心できる村づくり

基本目標 1 森と生きる 仕事づくり、ものづくり、ひとづくり

下北山村は村土の 90%を森林が占めています。村ではこのかけがえのない豊富な森林によりもたらされる、安らぎをもたらす空気や透き通った川、ダム湖など、さまざまな恵みを活かし、自然と共に生きる暮らしを実践してきました。このような村特有の自然を活かし、魅力ある特産品の開発や、多様な分野における雇用を創出します。

- ・新たな雇用を創出します。⇒20人の雇用を創出(H31)
- ・木工加工企業やテレワーク実施企業の誘致を推進します。⇒2社の新規事業者を誘致(H31)

1 新たな林業経営の調査研究

- ・林業技術者の育成方法の検討
- ・木工加工企業の誘致と起業支援（村内製材所の再稼働の検討）
- ・施業放置林の把握と育林整備

KPI(重要業績評価指標)

施業放置林整備面積:120ha
林業技術者:13人
木材出荷量:6,000 m³
起業数:1社

3 きなりの郷ブランドの研究・開発

- ・特産品の安定した生産体制の確立と後継者の育成
- ・ジビエ料理の研究・開発（獣害対策）
- ・特用林産物の安定した生産体制の確立
- ・下北山村の特産品や木工品のブランド化の推進

KPI(重要業績評価指標)

春まな、南朝みその販売額:3,000千円
有害獣(鹿、イノシシ、猿)捕獲頭数:500頭
分野別ブランド認定数:累計5分野

2 遊休農地の活用と就農者の創出

- ・地主と借り手が協力できる委託制度等による遊休農地の有効活用の促進

KPI(重要業績評価指標)

新規就農者:1人

4 起業・就業支援体制の充実

- ・コミュニティビジネスやテレワーク環境づくり等による新たな産業の創出と、企業誘致の推進

KPI(重要業績評価指標)

誘致企業数:1社

5 地域内消費の喚起

- ・住民及び来訪者が一定の消費活動を地元で行った場合に特典が受けられる仕組み等の検討

KPI(重要業績評価指標)

売上高:3億2050万円



基本目標 2

森に遊ぶ もてなし、ふれあい、感動づくり

世界遺産に指定されている大峯奥駈道や前鬼をはじめとした下北山村の豊かな自然資源と人的資源を最大限に活かし、おもてなし力の向上とPRの強化を進めることによって、交流人口の増加を目指します。また、古くからの伝説や下北山村にしかない恵まれた自然環境を題材に、新しい伝説となるきなりの郷の物語を創造し、下北山村ファンの獲得を目指します。

- ・下北山村を訪れる交流人口を増やします。⇒現状の121,000人から155,000人に(H31)
- ・下北山村スポーツ公園訪問者の観光消費額の増加を目指します。⇒一人あたり2,200円(1.2倍)(H31)

1 交流人口の拡大

- ・スポーツ公園における道の駅整備による地場製品の販売、情報提供機能の強化
- ・下北山村に伝わる伝説や恵まれた自然環境を題材とした、新しいストーリーやキャラクターの創作
- ・街道等既存ルートの検討・活用や、自然・歴史資源の魅力の発掘、広域的な視点も含めた観光ルートの確立と普及

KPI(重要業績評価指標)

(*スポーツ公園)利用者数:134,000人
来訪者:155,000人



桜咲くスポーツ公園周辺



バスフィッシングの聖地
池原ダム湖

2 きめ細やかなおもてなし体制

- ・情報発信機能や宿泊予約システムを備えた観光案内拠点の整備と、おもてなしスタッフの確保・育成、外国人観光客への対応強化
- ・インターネットを中心とした情報発信力の強化・充実と、下北山村を応援する会員(ファン)の獲得
- ・下北山村の観光資源(山・川・ダム湖)を活用したイベント・ツアー等の実施

KPI(重要業績評価指標)

おもてなしスタッフ:累計10人
「いいね!」件数:100件/投稿
下北山村を応援する会員:累計500名
イベント、ツアー参加者数:年間10,000人

3 新しい観光資源をつくる

- ・住民による自主的な花木の植栽運動への支援
- ・集落周辺環境に配慮した、住民・観光客が楽しめる空間づくり
- ・観光拠点エリアや拠点施設における村内住民の作品等を展示するギャラリーの整備等

KPI(重要業績評価指標)

花いっぱい運動参加地区数:8地区
風致景観整備実施か所:8か所
ギャラリー整備実施か所:1か所

基本目標 3 森で育む 子どもの笑顔と きなりライフ

美しい自然と人情味豊かな村民との関係の中に営まれる、心安らく生活環境を強みに、元気なシニア世代や、若い世代の定住・転入、結婚・出産支援に取り組み、また下北山村ならではの密度の高い教育環境づくりを推進します。地域交通等の整備や、地域防災力の向上、高齢者支援の充実等にも取り組み、暮らしやすい・暮らしたくなる村づくりに努めます。

- ・社会減の抑制を目指します。⇒現状マイナス 13 人をマイナス 7 人に(H31)
- ・合計特殊出生率の向上を目指します。⇒現状 1.31 を 1.50 に(H31)

1 定住・転入の促進

- ・空き家の紹介や、住宅改修、新築補助金の創設等、定住支援の充実
- ・転入者向けの相談体制の確立
- ・アクティブシニア世代が生き生きした移住生活をおくるための活動の場づくりの推進

KPI(重要業績評価指標)

移住世帯数: 累計 15 世帯



下北山村小学校



2 結婚・出産・子育てへの切れ目ない支援

- ・婚活等交流活動による下北山村の魅力の発信と、経済的支援を含む子育て支援の充実
- ・少人数ならではの密度の高い教育による基礎学力の向上と、外国語教育の充実

KPI(重要業績評価指標)

成婚数: 累計 10 組

外国語教育の充実

(村独自の英語講師採用): 1 人

ホームステイによる国際交流の実施

(中学校): 1 回/年

3 暮らしやすい安心できる村づくり

- ・公共交通ネットワークの確保
- ・集落内の支障木の伐採や、防犯対策の強化
- ・福祉医療施設整備に向けた調査・研究や、配食サービス等の生活支援サービスの充実

KPI(重要業績評価指標)

下北山村での乗降者数(乗合事業によるコミュニティバス): 年間 1,200 人

集落環境整備実施か所: 累計 24 か所

犯罪件数: 0

高齢者への支援策に関する満足度: 90%



下北山村の未来を守り、つなげるために策定された
下北山村地方創生総合戦略は、今がスタートラインです。

村に暮らす人も、村を訪れてくれる人も

「住みたい、住んで良かった」

「行きたい、行って良かった」

と思えるような村づくりに向けて、

この計画は住民のみなさんがすべて一丸となって
より暮らしやすく、元気な村を目指して取り組んでいくものです。

下北山村まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン及び総合戦略 概要版

平成 27 年 11 月 発行 下北山村

〒639-3803 奈良県吉野郡下北山村大字寺垣内 983

電話: 07468-6-0001 FAX: 07468-6-0377